

平成29年度パネル展（会期：平成30年3月27日（火）～6月17日（日））



古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2017-2018

1 はじめに

船原古墳は平成23年に古墳の傍らから大量の遺物を埋納した遺物埋納坑が発見されたことにより一躍注目を浴びることになります。平成26年の発掘調査により、墳長約40m以上、後円部径約30mの前方後円墳であることが確認されました。遺物埋納坑と併せて希少性・重要性が高まり、平成28年10月には「国史跡」に指定されています。

2 科学的調査の成果

平成29年度は、約130点を対象に科学的調査をおこなっています。調査対象の中心となる馬具には、轡・杏葉・辻金具・雲珠などがあります。中でも、忍冬唐草文心葉形鏡板付轡や鳳凰文心葉形杏葉など、馬装の復元や遺物のルーツを探る上で重要な遺物が含まれています。

【轡・杏葉】

それぞれ3点を対象に調査をおこなっています。忍冬唐草文心葉形鏡板付轡と鳳凰文心葉形杏葉は、形や大きさだけでなく、鋳留めの技法まで同じことがわかりました。これらはセット関係の可能性が高く、新羅で作られた舶載品と考えられます。

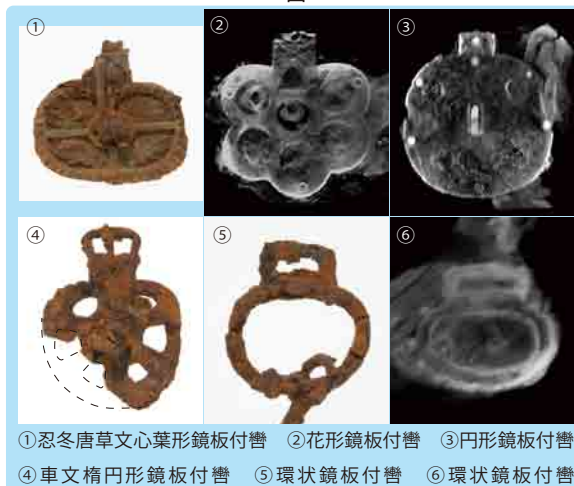
斜格子文楕円形鏡板付轡は、銜先にくびれを付け鏡板と連結する特徴的な構造をしています。この構造は高句麗系の技術によるものです。轡と杏葉の形や構造から、国際色豊かな遺物の全容が徐々に明らかになりつつあります。

【辻金具・雲珠】

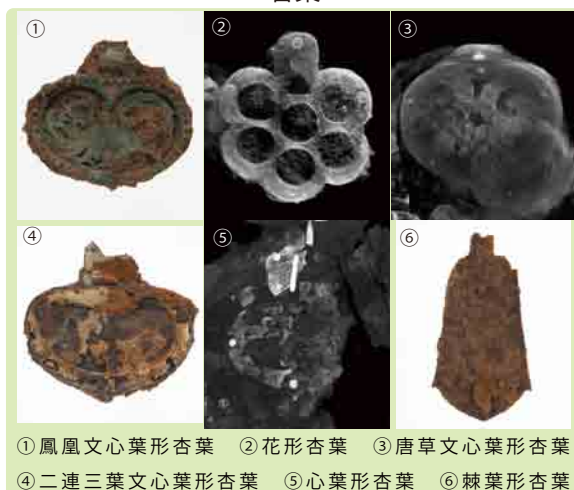
それぞれ3点を対象に調査をおこなっています。ガラス装飾付辻金具とガラス装飾付雲珠は、見た目よく似ていますが構造や技法も同様でセット関係にあります。国内に類例はなく、そのルーツは新羅にあると考えられています。

金銅製辻金具Iと金銅製雲珠は形や構造、鋳の数も同じでありセット関係と考えられます。辻金具と雲珠は、今回ご紹介したものの以外に少なくとも1種類が確認されています。

● 轡



● 杏葉



● 辻金具



● 雲珠



3 轡・杏葉・辻金具・雲珠の出土状況

下図(左)は、今年度調査をおこなった轡と杏葉の出土位置を配置したものです。轡と杏葉の多くは土坑の下側から集中して出土している様子がわかります。轡と杏葉はこれら以外に3種類あり、それらが1種類ずつ組み合わせられて、6セットの馬装ばそうになっていたと考えられています。

同じ馬装の可能性が高い忍冬唐草文心葉形鏡板付轡と鳳凰文心葉形杏葉は、土坑の上下で離れた位置から出土しています。この様な出土状況からは、同じ馬装であっても「面繫おもがい」と「尻繫しりがい」が離れて埋納されていた可能性が推測されます。

この他、忍冬唐草文心葉形鏡板付轡の付近には金銅装鞍つばあぶみや鉄製壺鏡つぼあなが出土しており、これらも同じ馬装であった可能性が高いと考えられています。

下図(右)は今年度調査をおこなった辻金具と雲珠の出土位置を配置したものです。ガラス装飾付辻金具以外は、土坑の下側から集中して出土している様子がわかります。轡や杏葉と同様に、辻金具と雲珠も数種類が確認されており、複数のセット関係にあったと考えられています。

ガラス装飾付辻金具は土坑の上側に集中しており、その出土位置は忍冬唐草文心葉形鏡板付轡と同じです。下側ではガラス装飾付辻金具とガラス装飾付雲珠の近くから、鳳凰文心葉形杏葉が出土しています。両者の位置は離れていますが、これらは同じ馬装であったと考えられています。

轡と杏葉、辻金具と雲珠などの組み合わせによりどのような馬装になるのかは今後の調査で明らかにしていきます。(学芸調査室 小林啓)



編集 発行: 平成30年3月26日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>